

2016年2月23日
東日本旅客鉄道株式会社
東京支社



江戸川区と連携した6次産業化企画
江戸川区産「小松菜」を使用した新商品限定発売！



JR東日本東京支社では、6次産業化「のもの1-2-3プロジェクト」の取り組みとして初めて、東京都産の農作物を使用した商品を発売します。

この度、発売する商品は地域農業の活性化や地産地消の推進を目的に、江戸川区特産の「小松菜」を使用し、(株)JR東日本リテールネット、(株)コロパン、(株)島村商店と連携開発し数量限定で販売いたします。江戸川区産の「小松菜」は全国でも有数の生産量を誇り、市場でも高く評価されております。ぜひ、この機会に江戸川区産「小松菜クッキー」をご賞味ください。

1. 新商品概要

小松菜のほんのりとした甘さが感じられるサクサク食感に、粗塩をバランスよく加えました。また、くるみ、ごま、チーズなどを使用しており、より風味豊かなものとして、お酒のおつまみや、野菜が苦手な小さなお子様でも美味しく召し上がれる商品となっております。

販売価格：1箱12枚入り540円(税込)

販売個数：5,000箱限定

販売店舗：一部のNewDays など計25店舗 運営会社：(株)JR東日本リテールネット

販売期間：2016年3月1日(火)～

【小松菜クッキー】



2. 「江戸川区産の小松菜」について

小松菜の歴史は諸説あるものの、一説によると江戸時代と言われております。そのゆえんは、徳川家の8代将軍徳川吉宗が鷹狩りで小松川村(現・江戸川区)を訪れた際に、もてなしの料理として地元で採れた名もなき青菜を使った汁物が献上されました。非常に美味であると称賛され、この名もなき青菜に地名をあてた、「小松菜」と命名したと言われております。

※「東京都農作物生産状況調査(平成25年産)」によると、都内の小松菜収穫量は7,592トン。江戸川区内の収穫量は2,859トンと全体の約4割を占め、都内でもトップの実績を誇っています。特に、江戸川区で生産される小松菜は収穫量・出荷量の多さだけでなく、品質の高さにも定評があります。

【江戸川区産 小松菜】



3. 生産者、加工者、販売者について

<1次(生産者)>

・真利子農園【小松菜栽培】

10代目となる真利子さんは、農業歴30年のベテラン。農林水産大臣賞の受賞歴もある小松菜名人。現在は、江戸川区農業経営者クラブの会長として、江戸川野菜の普及とブランド化などに携わっている。

・浅岡農園【小松菜栽培】

浅岡さんは、家族で小松菜栽培に取り組み、江戸川区産小松菜の未来について熱い思いを持ち小松菜を育てている。江戸川農産物直売会会長に就任し、直売会のリーダーとして日々奮闘している。また、江戸川区内の一部小学校給食へ小松菜を納品し、地産地消を推進している。また、地元小学校の課外授業にも携わり、野菜作りの大切さを教える取り組みもおこなっている。

<2次(加工者)>

・(株)島村商店【小松菜パウダー加工】

本業は運輸倉庫業でありながらも、地域活性化や地域共存を大切にし、江戸川区内の障害者施設と連携を図り、地域貢献に取り組んでいる。小松菜の利活用について日々試行錯誤を重ね、自社で小松菜をパウダーにした、「將軍小松菜うどん」の開発販売をおこなうと共に、区内の和菓子店やパン屋に小松菜パウダーを提供、小松菜関連商品の普及に協力している。

・(株)コロバン【小松菜クッキー製造】

日本で初めて本格的なフランス菓子を提供した洋菓子メーカー。洋生菓子の代名詞となっているショートケーキを考案し、今では一般的になった洋生菓子実演室付き店舗をいち早く日本に誕生させた。現在、原宿本店屋上で養蜂事業を手掛けており、採れたはちみつを使ったスイーツを販売、地産地消にも積極的に取り組んでいる。

<3次(販売者)>

・(株)JR東日本リテールネット【駅構内店舗販売】

JR 東日本の連結子会社であり、おもにJR東日本管内の駅などにある、KIOSK・NewDays の「コンビニエンス事業」のほか、「専門店事業」「デベロッパー事業」をおこなっている。

①



②



①「えどちゃん」江戸川区農業応援キャラクターです。 ②「こまつなくん」えどちゃんの仲間です。



のもの1-2-3プロジェクトとは…

JR 東日本グループが推進する、6次産業化に向けたものづくりプロジェクト。

JR 東日本グループネットワークを活用し、農林漁業の6次産業化に向けたものづくりを応援しています。